

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立浦和第一女子高等学校)

目指す学校像	世界で活躍できる知性と教養、逞しさを備え、社会に貢献する高い志を持った魅力あるリーダーを育成する女子高校
--------	--

重点目標	1 学力向上に組織的に取り組み、自己の進路実現を果たす一女生を育成する。 2 部活動、学校行事などに全力で取り組み、自らを高める一女生を育成する。 3 国内外との様々な連携を推進するとともに、一女の教育を積極的に情報発信する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標				年度評価(月日現在)			実施日 平成 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	
学校関係者からの意見・要望・評価等								
1	①県内トップレベルの学力をもつ生徒に対し、高い志を育成し、進路希望実現に向けた数々の取組を行い、成果を上げている。全教室に整備したWi-Fi環境を生かし、生徒が広い視野で情報を得、実感を持って学ぶ体制づくり、授業づくりを推進する必要がある。 ②全職員の共通理解のもと計画的にガイダンスを実施し、生徒が主体的に進路について考える指導体制が整ってきている。生徒一人ひとりに合った充実した進路指導が提供できるよう、学年・教科・分掌間の連携がより求められる。 ③新学習指導要領、高大接続改革についての研究を進めている。本校の取組の良い点、改善点を明らかにし、教育課程改訂に向けた将来構想のアウトラインをまとめていく必要がある。	①授業改善への取組みに対する共通理解の推進 ②全職員による組織的な進路指導 ③新学習指導要領、大学入試改革の内容の調査研究	①教務、学力向上委員会を中心とし、生徒の主体的な学びを支援する体制を整えるとともに、ICTを活用した授業研究、授業改善に取り組む。 ②学年および進路指導部の連携を綿密にし、各進路行事を一層充実・発展させる。生徒一人ひとりの目標実現に向けた進路指導にあたる。 ③ビジョン委員会・企画委員会を中心に調査研究を進める中で、課題を共有し将来構想について検討を進める。	①・授業改善に向けた研究授業、情報交換会の実施状況 ・実力養成講座の開講数 ・ICT活用研修会の実施状況 ・ICTを活用した授業実践の状況 ②・情報提供により大学等の魅力の発信 ・進路ガイダンス、個人面談の実施回数 ・保護者向け講演会の実施 ③・先進校視察、外部研修会等への参加状況 ・校内研修会の実施				
2	①16年目となるSSH、中間報告で高い評価を受けたSGHの実施により、探究型学習の成果が出ている。その成果を継続、発展させていく、より組織的な運営を推進していく必要がある。 ②生徒が中心となって様々な学校行事を企画運営している。部活動に係る活動方針に則り、文武両道の実現に向けより効率的かつ効果的な活動となるよう支援することが求められる。 ③悩みを抱える生徒支援に重点的に取り組んでいる。教育相談をより充実させると同時に、生徒自身にも生きる力の醸成を促していくことが求められる。	①SSHの取組状況 SGHの取組状況 ②各学校行事における支援状況 ③教育相談体制の充実	①探究学習部を基盤として全職員で各々の活動の取組を支える。 ②生徒会を中心に、各行事において生徒たちが主体的に活動できる環境づくりを行う。 ③生徒指導部、保健環境部、教育相談委員会を中核とし安全・安心な学校づくりのための組織的な取組を推進する。	①・SSH1年受講生65名、選択生徒の満足度 ・SGHの効果的な計画立案、実施及び生徒全体への還元状況 ②・各行事における生徒の満足度 ・生徒の成長 ③・スクールカウンセラーの有効活用 ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応状況 ・支援を必要とする生徒の情報共有状況				
3	①本校の取組を幅広く公開し、一定の成果を得ている。HP等のリニューアルを進め、情報発信力を高めるとともに、学校説明会等で新入試対応など、より詳しく説明ができるよう校内体制を整備する必要がある。 ②幼稚園・小・中学校・塾・大学・地域との連携を図り、充実した取組を展開している。地域の中で生きることの意味を学ぶ地域連携、大学の研究室等との共同研究などさらに一歩進んだ質の高い連携が望まれる。	①本校教育活動に対する情報発信の充実 ②外部との連携の推進	①学年、各分掌が連携し諸行事の充実を図ると共に、その活動を広範囲に発信していく。 ②教務・学年を始め、各分掌が中心となってさまざまな連携の充実を図る。国際交流委員会やSGH推進委員会が綿密に連携する。	①・授業公開・学校説明会の実施状況 ・生徒による中学校訪問実施 ・地域、学習塾等との連携状況 ・HPのアクセス数年間10万件以上 ・志願者数の増加 ②・文化部を始めとする部活動の地域参加 ・幼高連携、高大連携の各プログラムの充実 ・地域住民の方々との交流3回以上 ・小学校との交流参加者50名以上				